

エッセー 自然が育む力



6月の「森のようちえん」で、歩いている途中に野イチゴを見つけた。周りを見ると野イチゴの葉っぱはあるのに、なかなか実を見つけない。ふと見上げると、斜面の上2層ほどの所に黄色い大粒の実がなっているではありませんか。

そこで子どもたちは急な斜面をよじ登って、手を伸ばしてみますがなかなか採ることができず、周りの大人はもどかしくも見守ります。四苦八苦している最中に子どもたちがつかんでいた草が根元からスポッと引き抜

野イチゴと涙、サクランボと笑顔



サクラの枝を引っ張り、サクランボを収穫する子どもたち

がこぼれる子もいます。でもまだ子どもたちの手の中に野イチゴはありません。さて、皆さんならどこでどのような行動にでますか？

①大人が採ってあげる
②「採らなくてもいいから早く行こう」と前に進
③じっと見守る
④斜面を落ちない手助けをする
みんなが小さかったころを思い出してみて下さい。もし同じような状況に陥ったとすれば、周りに残るのかもしれない。

いるかもしれません。きっと子ども心に、少しの勇気を出してチャレンジすることの方が強く記憶に残るのかもしれない。もし、チャレンジ途中にけがをしたのであれば、その時は魔法の言葉「痛い痛い飛んで行け」と元氣付けてあげましょう。

話は戻り、その後、野イチゴはお母さんたちに体を支えてもらい、無事に自分たちで採って食べることができました。野イチゴの後には、オオシマザクラのサクランボも食べて、笑顔いっぱい。おいしい思い出がいっぱいでも彼らの記憶に残ってくれるとうれしいです。
(尼崎市立美方高原自然の家指導部マネジャー 藤井かすみ)